

日本中世英語英文学会第 19 回全国大会プログラム

時： 2003 年 12 月 13 日(土)・14 日(日)

所： 東京外国語大学府中キャンパス

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

http://www.tufs.ac.jp/common/is/university/access_map.html

第 1 日 12 月 13 日(土)

11:30-16:00 受付

13:00-13:40 総会

13:45-14:45 会長講演

司会 春田節子(白百合女子大学)

「中世英国韻文ロマンスにおける反復について」 今井光規(摂南大学)

15:00-17:30 シンポジウム

「中世を作る 中英語ロマンスの場合」

司会・講師 高宮 利行(慶應義塾大学)

1. 序論 高宮利行(慶應義塾大学)
2. 中世ロマンスの再発見 ロマン派の時代 高橋 勇(慶應義塾大学大学院)
3. 『サー・ガウェインと緑の騎士』刊行後のマッデン 1839 年冬のマッデン
横山茂樹(京都産業大学)
4. F. J. ファーニヴァルと EETS 高宮利行(慶應義塾大学)
5. J. R. R. Tolkien の *Sir Gawain and the Green Knight* 編纂と
The Lord of the Rings 執筆への影響 伊藤 盡(杏林大学)

15:00-17:50 研究発表

司会 小川 浩(東京大学)

1. 散文版 *Paris Psalter* における法助動詞について
市川 誠(青山学院大学大学院)
2. 古英語における代名詞と動詞の語順 アルフレッド期の散文作品を中心に
山村誠治(大阪産業大学)

司会 児馬 修(東京学芸大学)

3. チョーサー散文作品におけるワードペア使用の違いについて
谷 明信(兵庫教育大学)
4. 『パストン家書簡集』における Epistemic Adverbs
平山直樹(広島大学大学院)

18:00-20:00 懇親会

第2日 12月14日(日)

9:30-11:30 受付

10:00-12:30 シンポジウム

「チョーサーの言語 Burnley's Guide から 20 年」

司会・講師 小倉美知子(千葉大学)

1. カンタベリー物語の構成からみた写本と語り順

Young-Bae Park (Kookmin University)

2. オーヒンレック写本プロジェクト バーンリィ教授の編集方法

酒見紀成(広島工業大学)

3. OE Prose *Boethius* と Chaucer's *Boece* の語彙

小倉美知子(千葉大学)

4. 意味論と語用論の狭間で: Chaucer の *semely* とその関連語

光学的観点からの再考

中尾佳行(広島大学)

10:00-12:10 研究発表

司会 忍足欣四郎(東京都立大学名誉教授)

5. *Beowulf* に登場する盗人について

古田直肇(東京大学大学院)

6. Hrothgar's Sermon 再考

唐澤一友(横浜市立大学)

7. 古英詩現代英語訳に見られる古語・擬古体:

Beowulf 訳を中心に英詩語彙の歴史的連続性を考える

渡辺秀樹(大阪大学)

10:40-12:10 研究発表

司会 松井倫子(立教大学)

8. *Sir Gawain and the Green Knight* における新年の遊びの構造とその意味

多ヶ谷有子(関東学院大学)

司会 松田隆美(慶應義塾大学)

9. 中英語ロマンスにおける反ロラード主義?

『ローマの善女フローレンス』とその写本をめぐって

田尻雅士(大阪外国語大学)

12:35-12:50 閉会式